

身近な川に親しみ・川のことを知る

水生生物調査の概要

川や湖などの水中にもたくさんの生きものがすんでいます。水のきれいさによって、その種類には違いがあります。

「水生生物による水質調査（水生生物調査）」は、その性質を利用して、川にすむ生きものの種類を調べ、その場所の水質を判定するものです。水のよごれ具合をあらわす生きものは「指標生物」とよばれ、伊那谷で古くから食用とされてきた「ざざむし（トビケラ類）」のなかまも、指標生物のひとつとなっています。

川の生きものを捕って・観察する学習の機会であるとともに、川とのふれあいが体験できる楽しい調査ですので、ぜひご参加ください。



川にたくさんの生きものがすんでいることを知る



生きものを調べて水質を知る

アミカ類 ナミウズムシ カワゲラ類 ヨコエビ類
サワガニ ナガレトビケラ類 ヒラタカゲロウ類
フコ類 ヘビトンボ ヤマトビケラ類

水質階級Ⅰ（きれいな水）

カワニナ類 コオニヤンマ
ゲンジボタル
コガタシマトビケラ類 ヒラタドロムシ類

水質階級Ⅱ（ややきれいな水）

タニシ類 ミズムシ
シマイシビル
ミズカマキリ

水質階級Ⅲ（きたない水）

サカマキガイ

水質階級Ⅳ（とてもきたない水）

ヒゲナガカワトビケラ タニガワカゲロウ類
キイロカワカゲロウ チラカゲロウ
コヤマトンボ モノアラガイ

その他の水生生物

【過去の天竜川上流水生生物調査でみつかった指標生物などの例】

水生生物調査では、「どのような指標生物が・どのくらいすんでいるか」によって、その場所の水質を4段階（Ⅰ～Ⅳ）の水質階級であらわします。